

# 港南区教育研究会

## 1 研究主題（テーマ）

「社会に開かれた教育課程の創造・実践」

～主体的・対話的で深い学びを実現する授業力の向上と研究交流の広がりをめざして～

## 2 研究主題について

令和2年度は、新型コロナウイルスの対応で研究会も様々な影響があった。区一斉授業研究会の見送りや区水泳記録会、区球技大会等も中止になった。しかしながら、このような状況の中でも、参加者の人数を制限したりオンラインにより情報交換をしたり、あるいは講演会を開いたりする等、各研究部で工夫をして研究を継続してきた。今年度は、「学びを止めない」という市小学校教育研究会に準じ、区一斉授業研究会を実施すること等を目指し研究の在り方を工夫してきた。このことから研究主題を市小学校教育研究会と合わせ研究を進めるために同じ主題とした。また、研究は私たちの権利でもあり義務でもあり、研究交流を通して、よりよい学びとは何かということを深めていきたい。

今年度は、GIGA スクール構想の中で、児童一人に1台タブレットが配当され、校内環境が整うことになる。このことは、教育の大きな転換期を迎えることになると考えている。タブレットを単なる道具として使うのではなく、児童の主体的、対話的で深い学びにつなげるためには、どのようにしてこの環境を活かしていくのかということが、先生方の実践の交流が必要だと考えている。また、教育活動の実践や工夫を持ち寄る中で、それぞれの教科・領域における資質・能力を明確にして、確実に育成することが重要だと考える。授業研究会を見据えて、各校で取り組んでいる重点研究の内容も含め、多くの実践提案等が授業の進め方におけるヒントや教材の工夫等につながることで、区全体の教育活動のレベルを上げていきたい。

## 3 各研究部の研究テーマと年間活動事業報告

### (1) 研究テーマ

国語 主体的・対話的で深い学びを目指す国語科学習の研究～子どもが「言葉による見方・考え方」を働かせる指導の在り方～

社会 子どもが問題意識をもって、主体的に学習に取り組むことのできる学習過程のあり方

算数 系統性、連続性を重視した学習の展開～身に付ける力を明確にした授業づくり～

理科 自然に親しみ、共に豊かな学びを創り続ける子どもの育成～自分の生活を見直して、問題解決しようとする子どもを目指して～

音楽 音楽の美しさや楽しさを感じ取り、一人ひとりが生き生きと表現できるようにする音楽活動の在り方

図画工作 「感じる・つくる・考える」子供の姿をめざす図画工作科学習の創造

家庭 「ひと・もの・こと」とのつながりを大切にし、自らの生活を豊かに創造する子どもの育成～実践力を高める指導と評価の在り方～

体育 主体的・対話的で深い学びを通して、児童が運動の楽しさを味わい、自分で課題解決できるための授業づくり

道徳 自己を主体的に見つめ自分の見方・考え方を多面的・多角的に広げ、深めるための道徳科のあり方とその指導～振り返りで自分のことを本音で語れるための支援のあり方～

特別活動 主体的に問題を解決していく子どもの姿を目指して～学習過程の中でめあてを意識した活動の進め方～

- 情報教育 子どもが情報を活用し、主体的に学ぶ姿を目指して～目的意識をもって情報機器を活用する～
- 学校図書館 自ら学ぶ力を育てる学校図書館のあり方～豊かな心を育てる読書指導と情報活用能力の育成～
- 学校行事 豊かなかかわりの中で実践的な社会性を育む学校行事の創造
- 学校食育 豊かな心と丈夫な体で、たくましく生きる子どもの育成～自らの健康を考え、主体的に取り組める食に関する指導のあり方～
- 養護 よりよい保健室経営をめざして～コロナ禍における保健室経営の工夫と実践～
- 学校事務 研究発表に向けて、書類の「ファイリング」方法について研究する。加えて毎日必要と思われる常態の仕事にも触れる。
- 特別支援 子ども一人ひとりの生きる力を育成する指導のあり方～一人ひとりの「自立につながる力」を育てる指導・支援の工夫～
- 栄養教諭・学校栄養職員 食に関する指導を中心とした健康教育の研究  
～「食」を家庭・地域へ～
- 生活科・総合的な学習の時間  
まちや人とのかかわりを通して、主体的に取り組む子どもを目指して
- 外国語活動 子どもたちが生き生きとコミュニケーションを図ることのできる外国語活動のあり方～指導と評価の一体化の視点から考える～

## (2) 年間活動事業報告

- |                 |  |
|-----------------|--|
| ①区小学校教育研究会総会    | 書面総会   |
| ②区水泳記録会         | 今年度は中止   |
| ③区巡回図工展         | 今年度は実施   |
| ④区個別支援学級合同宿泊学習  | 今年度は中止   |
| ⑤区児童音楽会         | 今年度は、希望を取り、人数のバランスを考えて実施                           |
| ⑥港南区学校給食展       | 6月24日(木)～30日(水) (港南区役所)<br>1月26日(水) (地域子育て支援拠点はっち) |
| ⑦区球技大会          | 中止   |
| ⑧区個別支援学級合同学習発表会 | 近隣校でのビデオ交流   |
| ⑨講演会            |  |

国語	8月18日(水)
社会	6月23日(水)
算数	7月14日(水)
理科	
家庭	5月19日(水)
道徳	5月26日(水) 6月30日(水)
学校図書館	1月26日(水)
情報教育	7月21日(水)
生活科・総合	5月26日(水) 3月2日(水)
外国語活動	8月24日(火)
特別支援	6月30日(水)

⑩ 実技研修会

社 会	8月18日(水) <臨地研修会>
理 科	5月19日(水) <安全研修> 8月18日(水) <臨地研修会>
音 楽	9月15日(水) <指揮法研修> 10月13日(水) <合唱研修>
図画工作	8月18日(水)
家 庭	8月18日(水) 10月13日(水)
体 育	6月23日(水) 7月14日(水)
道 徳	8月24日(火) <ワークショップ> 1月26日(水) <ワークショップ>
特別活動	8月24日(火)
学校図書館	7月21日(水)
情報教育	8月24日(火) オンライン <市研と共同> 1月26日(水)
特別支援	8月24日(火) <臨地研修会>
生活・総合	8月24日(火) (講演会)

⑪ 区一斉研授業研究会

後 期 (A) (1 / 19)		前 期 (B) (11 / 24)	
国 語	下 野 庭	道 徳	日 下
社 会	芹 が 谷	特 別 活 動	日 野
算 数	芹 が 谷 南	学 校 食 育	日 野 南
理 科	相 武 山	学 校 図 書 館	丸 山 台
音 楽	永 野	情 報 教 育	南 台
図画工作	永 谷	特 別 支 援 教 育	丸 山 台
家 庭	野 庭 す ず か け	養 護	上 大 岡
体 育	日 限 山	生活科・総合的な学習 の時間	港 南 台 第 一
		外 国 語 活 動	港 南 台 第 二

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・一斉研や実践提案では、一人一台端末のタブレットの活用の仕方等が提案の中に含まれ、日々の授業実践に生かすことができた。
- ・10月からクラスルームを立ち上げたことで、連絡事項の伝達や指導案検討を行う場として有効に活用することができた。
- ・校外学習が難しいコロナ禍で、どのような方法で教材を身近に感じられるようにするか情報交換を行った。実践提案や資料提案では ICT 機器の活用による導入の工夫や資料提示の可能性について考えることができた。
- ・一人一人が自分の視点で授業を見ることはできなかったが、オンラインでの開催の仕方や研

研究会の持ち方についての運営実践ができ、今後同じような状況になっても対応できるものと確認ができた。

- ・一斉授業研究会では、音楽科指導資料を基に授業をおこない、動画を伴った提案のスタイルを確立した。動画や掲示物があるとより授業の詳細がわかり、課題と成果を分析しやすい。
- ・区巡回図工展では、グループごとに学校を巡回し、他校の作品を見会うことができた。
- ・一斉授業研において、教師や子ども達の関わり合いの中で、主体的・対話的に課題を解決する姿が見られた。
- ・コロナ禍であっても、各校が感染症対策を講じた実践提案や一斉授業研があったことで、児童の具体的な姿を通して研究を積み重ねることができた。
- ・ZOOMのブレイクアウトルームを活用し、小グループで討議をすることで活発に意見を出し合うことができた。
- ・GIGA 端末導入一年目ということで、様々な試行錯誤して研究することができた。
- ・コロナ禍での学校図書館の利用の仕方や各校の取り組みについて、実践提案をもとに情報交換を行った。読書感想文の審査は、今年度、初めて審査方法を変えて行った。集合せずに、それぞれ自校で行う形式で審査をした。
- ・実践提案では、感染症の拡大防止と、児童の豊かな体験との調整をはかりながら、充実した提案、協議がなされた。また、感染症の拡大防止をはじめ、カリキュラム・マネジメントや、学校運営に関する諸々の困りごとについて、情報交換が活発になされた。
- ・一斉授業研では、初めてのリモート授業も行うなど、コロナ禍における新しい研究授業の仕方を学ぶこともできた。
- ・コロナ禍のため、集合研修が難しい時期もあったが、Google meet や ZOOM を活用し、リモート開催にすることで研究討議や中学校ブロックでの情報交換を行うことができた。
- ・区給食展を通して給食から発信する地域と繋がる健康教育の研究を進めることができた。
- ・実践提案や情報交換では、各校の工夫した取組や教材、ロイロの活用など知ることができ、実践へつなげることができた。
- ・部員の多くが家庭科を受け持っていない現状もあり、実践提案では各グループで話し合ったことを画用紙等に残して、実践してくださった方にもフィードバックできるようにした。

## (2) 課題

- ・「情報交換」の場がオンライン上になり、各学年の授業の様子や悩みなどを共有する時間が取れなかった。
- ・目指す子どもの姿や身に付けさせたい力が具体的でないこと、そのために毎月の提案やそこで出された手立てが一斉研へと積み重なりづらいことが指摘された。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の手立ては、運動の楽しさや課題解決することにつながることもあった。
- ・低・中・高学年、発達段階による目指す子ども姿に違いがみられた。
- ・今までの方法が否定されるわけではないが、GIGA 端末への抵抗感を職員が減らしていくには研修などやっていく必要があると感じた。
- ・特別活動の授業の持ち方やオンライン開催等、初めての試みが続いた。
- ・養護教諭としては区研は同職種と研究交流できる貴重な場なので今後も持続可能な研究の形を模索していきたい。
- ・デジタル教科書やタブレットの活用について困っているという意見が多かったので、情報交換等で効果的な方法について研究していきたい。